

木材需給動向について (全国)

2021年7月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

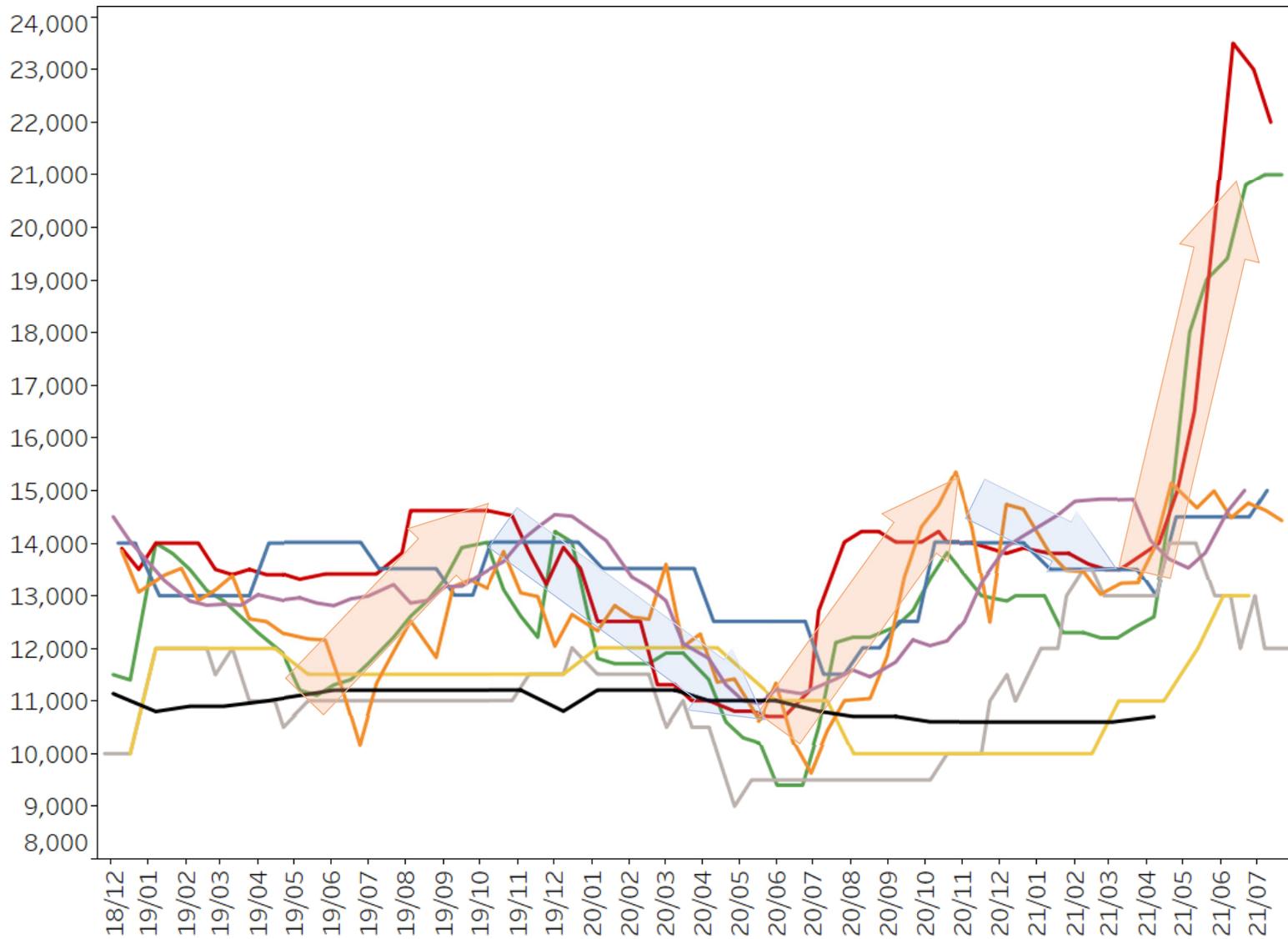
3 住宅着工戸数の動向

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 2021年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く、九州地域では価格が高騰している。
- 2021年7月のスギ原木価格は、前年同期比18%から74%増となっている。

(円/m³)



都道府県	2021年7月*	前年同期	前年同期比
北海道	10,700	11,000	-3%
秋田県	15,000	11,130	35%
栃木県	14,430	11,930	21%
長野県	13,000	11,000	18%
岡山県	12,000	9,500	26%
高知県	15,000	11,500	30%
熊本県	22,000	12,700	73%
宮崎県	21,000	12,100	74%

※令和3年7月における直近の値。ただし、当該月の値がないため、北海道については4月、秋田県及び長野県については6月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

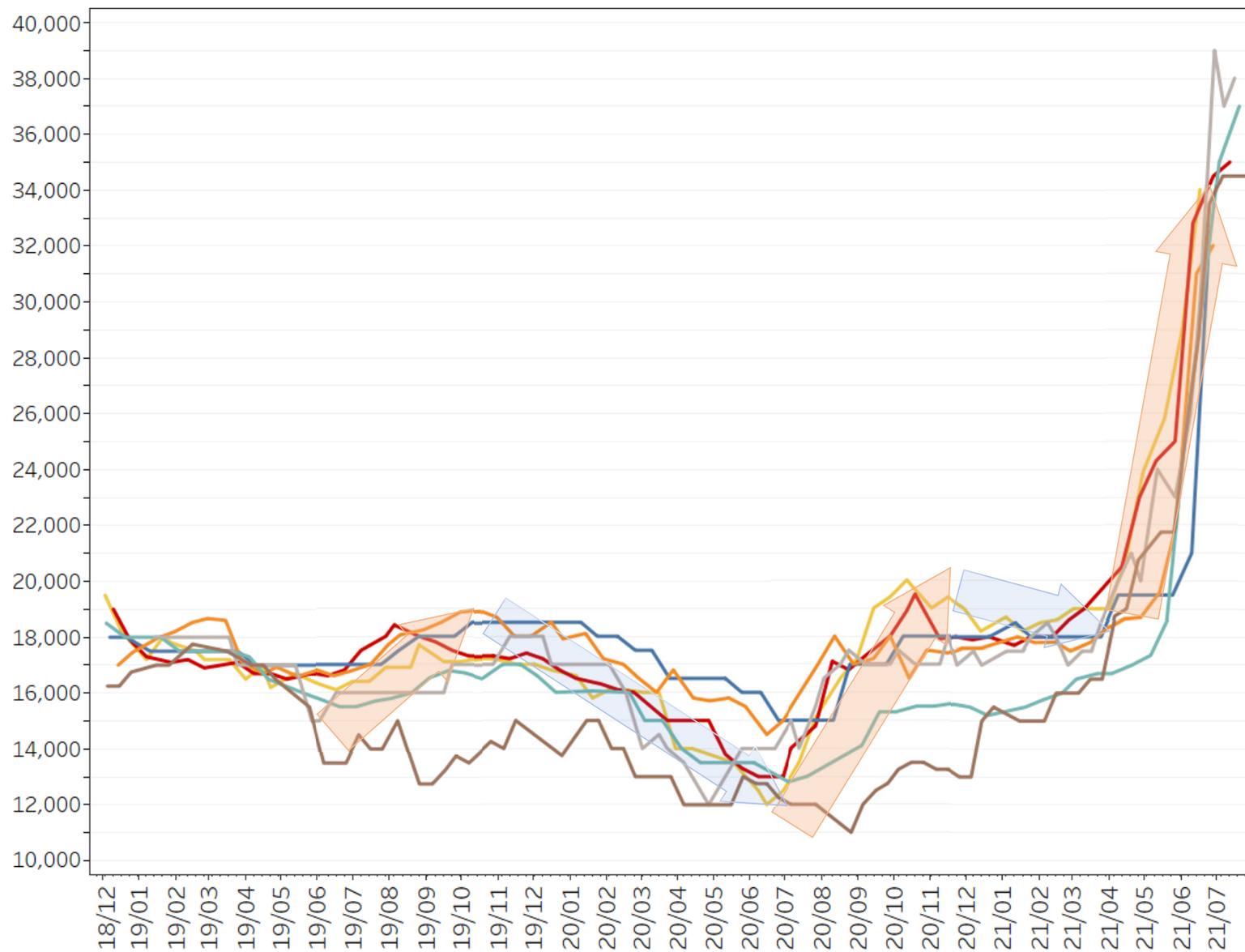
(年/月)

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、2020年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、2021年に入ってから、例年であれば原木価格が下落する時期にもかかわらず、全ての地域で上昇し、地域によっては高騰している。
- 2021年7月のヒノキ原木価格は、前年同期比113%から188%増となっている。

(円/m³)



都道府県	2021年7月*	前年同期	前年同期比
兵庫県	34,500	12,000	188%
岡山県	37,500	15,500	142%
広島県	37,000	15,700	136%
愛媛県	32,000	15,000	113%
高知県	32,500	15,000	117%
熊本県	35,000	14,000	150%
大分県	36,000	13,500	167%

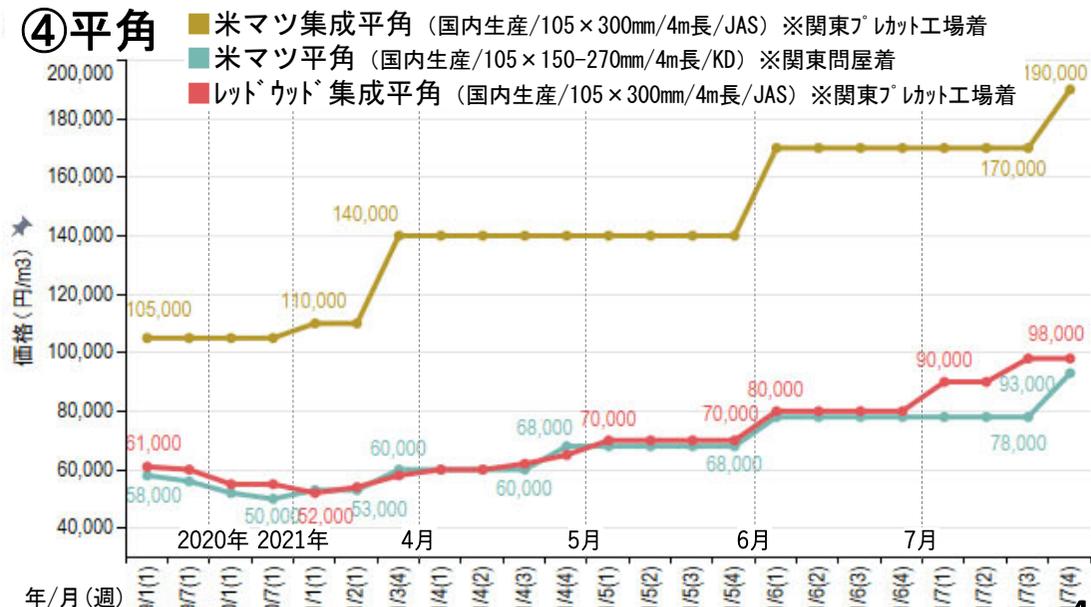
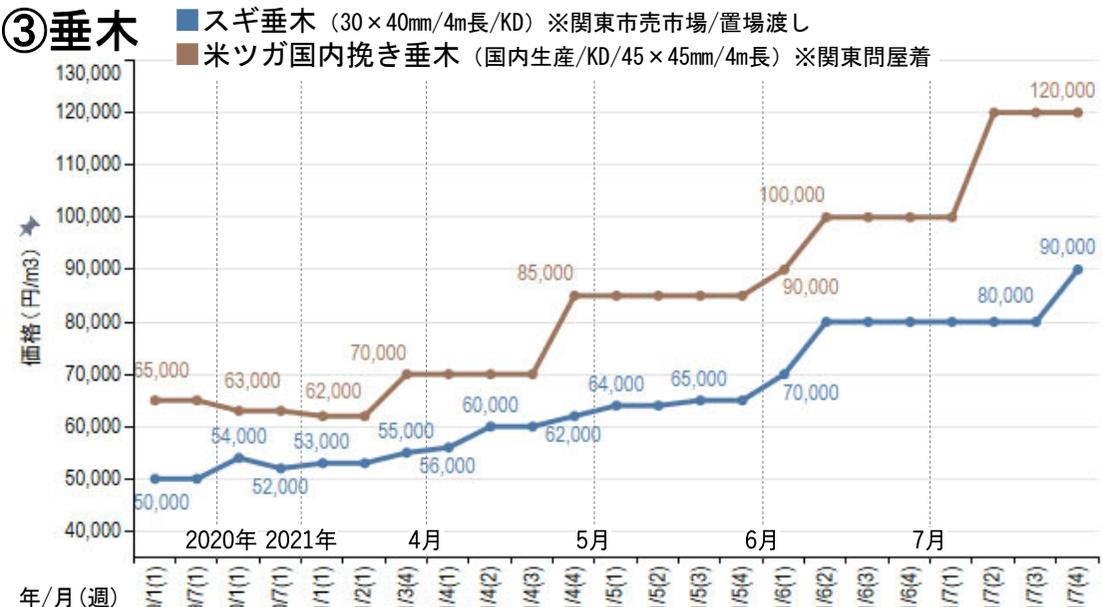
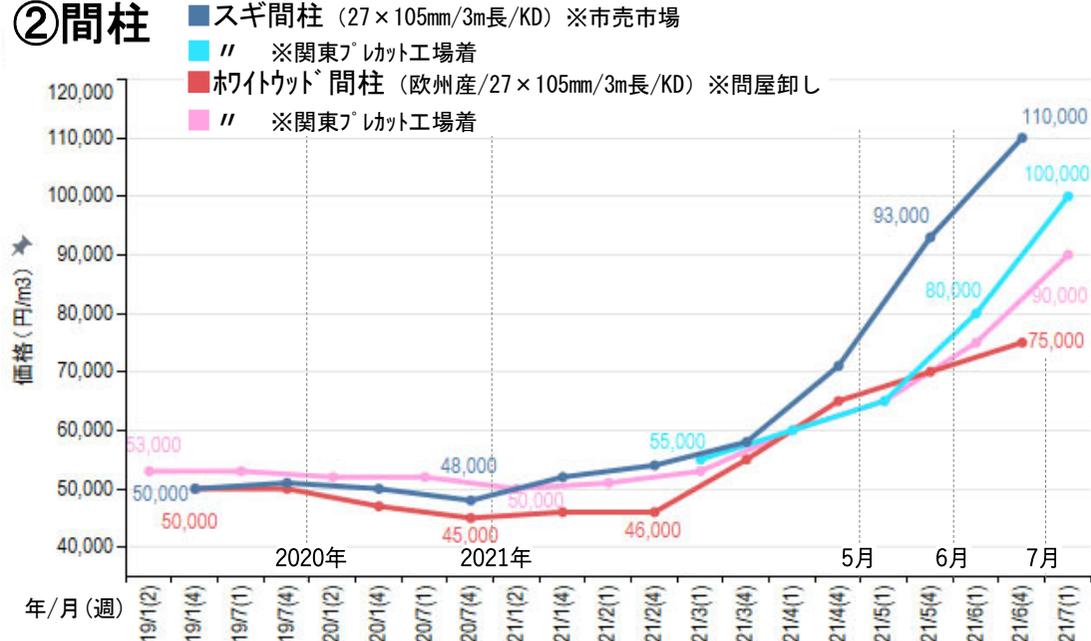
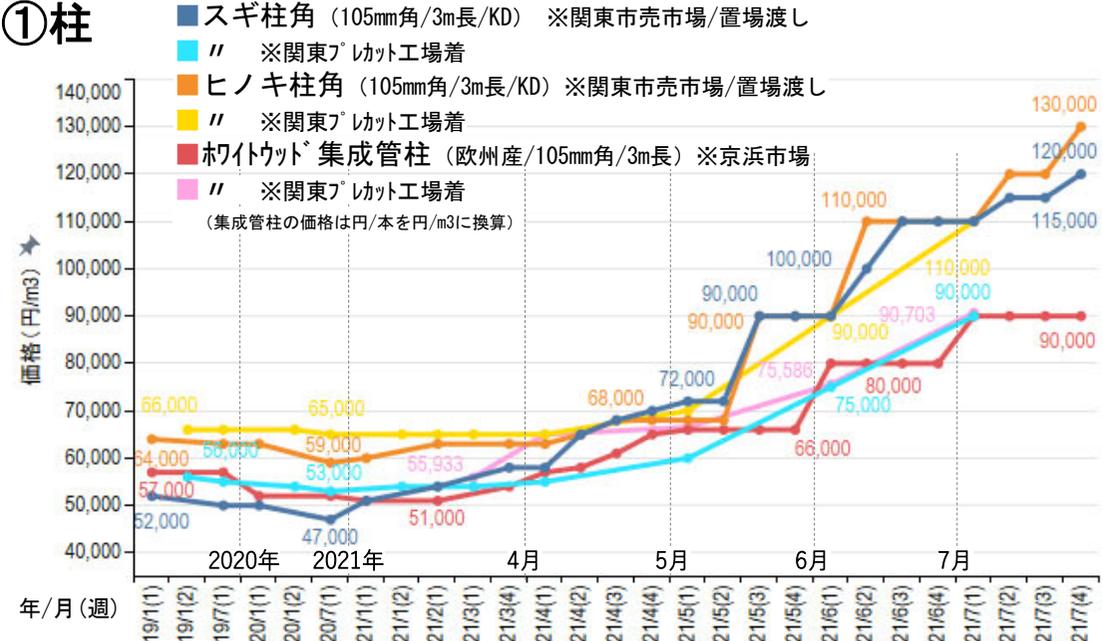
※令和3年7月における直近の値。ただし愛媛県、高知県については当該月の値がないため、6月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(年/月)

(2) 製品価格

- 輸入材製品価格は、北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要拡大、世界的なコンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇。

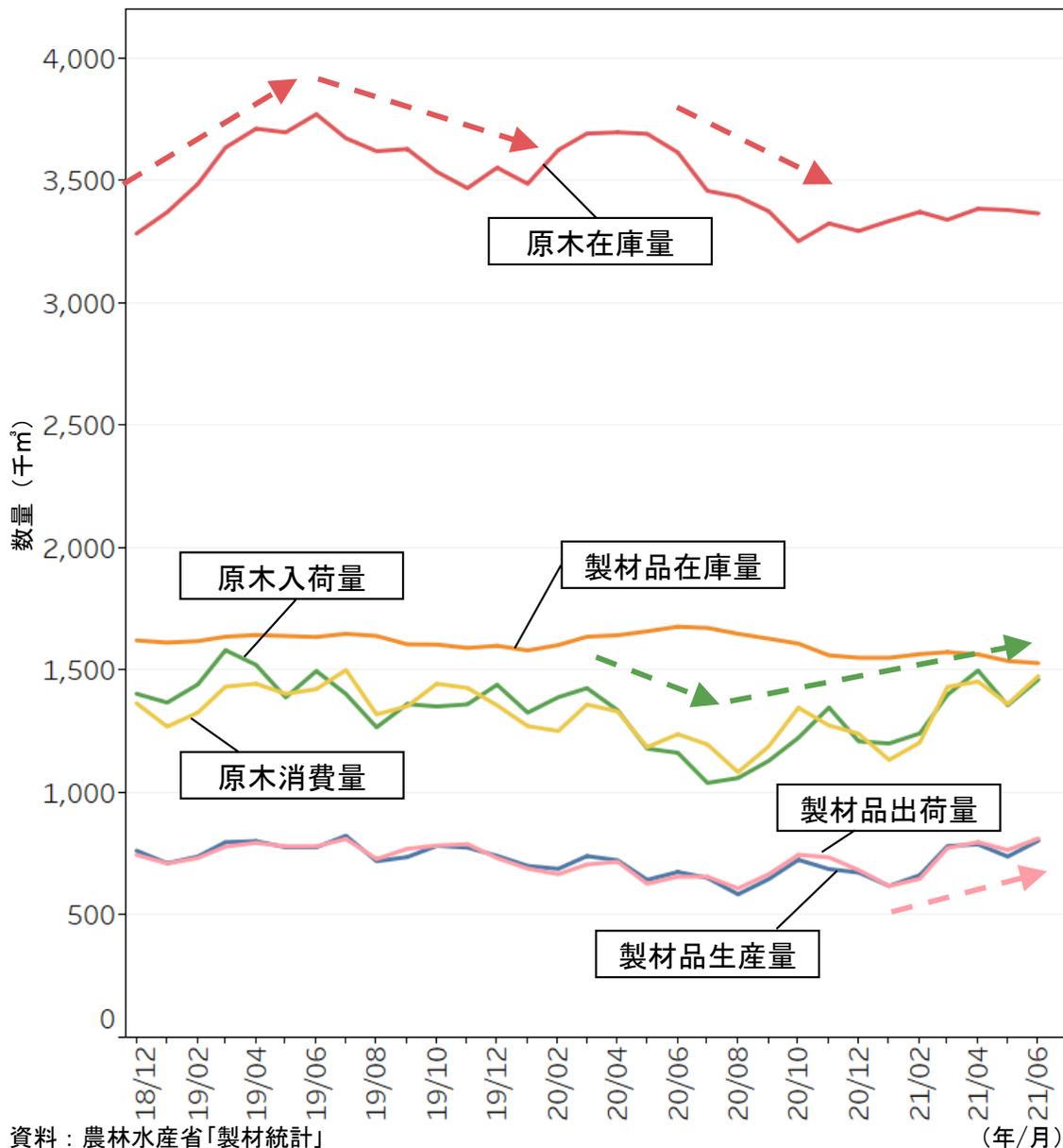


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

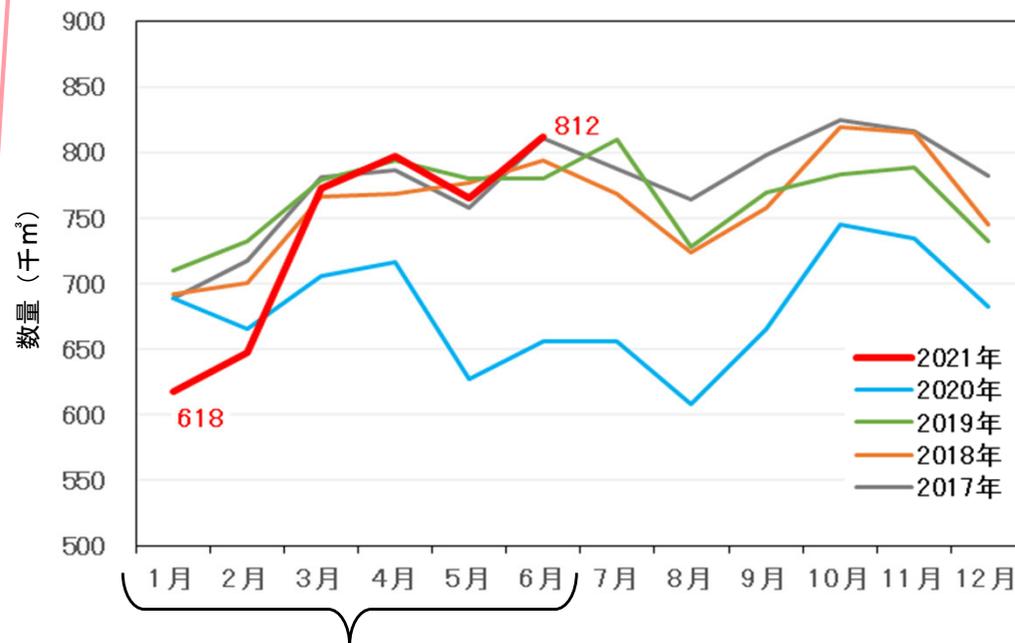
2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- ・ 製材品の生産量及び出荷量は、2021年1月から増加傾向。5月は減少したものの6月は増加に転じ、コロナ禍前の水準となっている。
- ・ 原木の入荷量及び消費量においても、2021年1月から増加傾向。5月は減少したものの6月は増加に転じた。



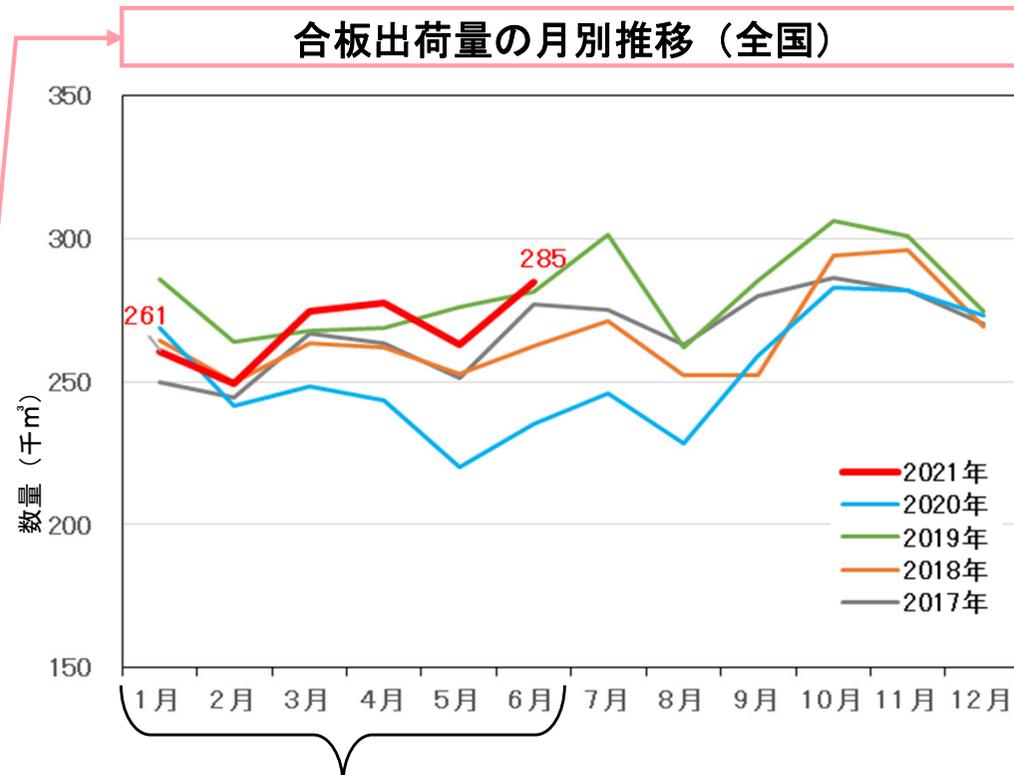
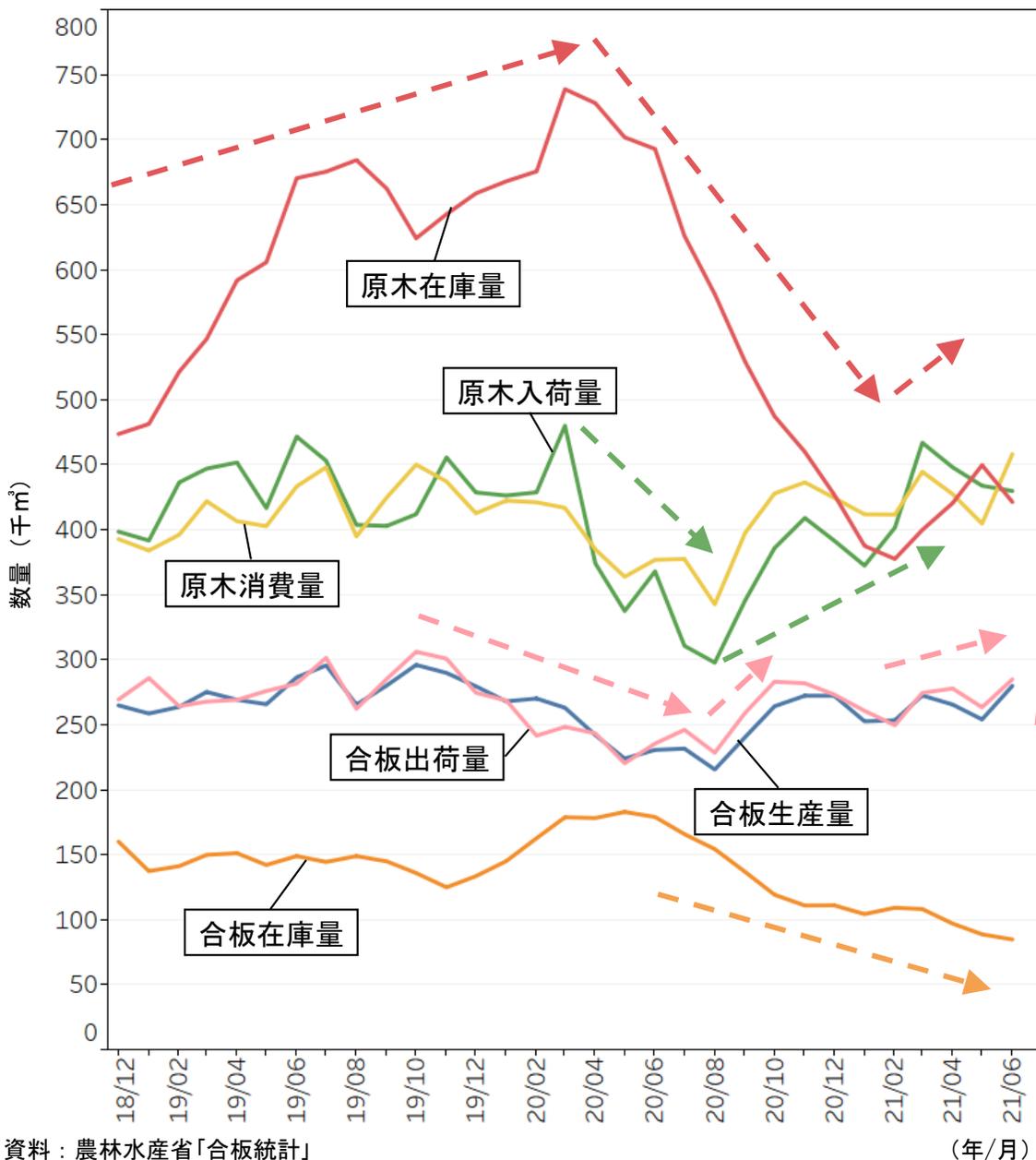
製材品出荷量の月別推移 (全国)



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～6月出荷量 伸び率	18%	15%	10%	-5%	31%
1～6月出荷量 合計(千m³)	4,544	4,498	4,575	4,061	4,412

(2) 合板 (全国)

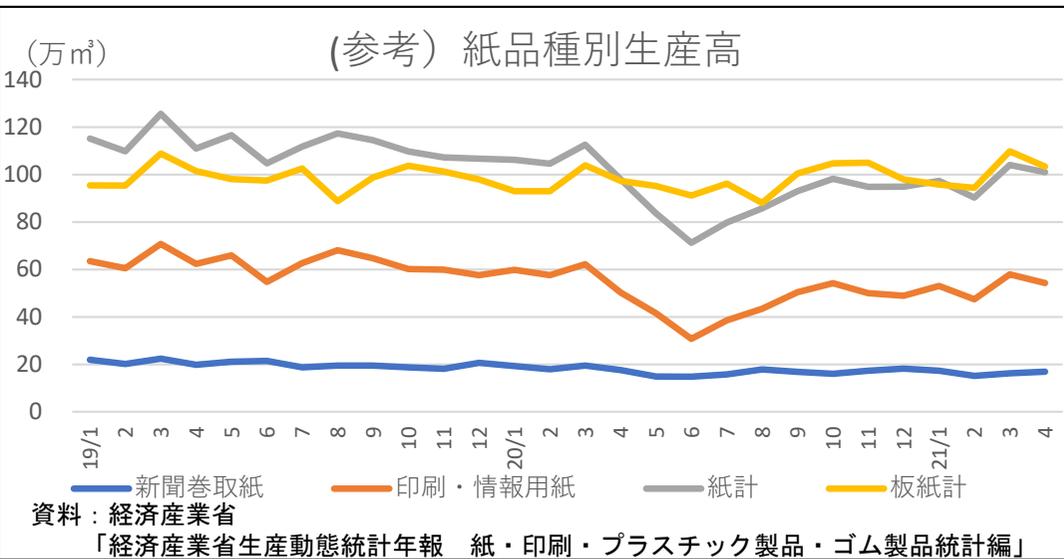
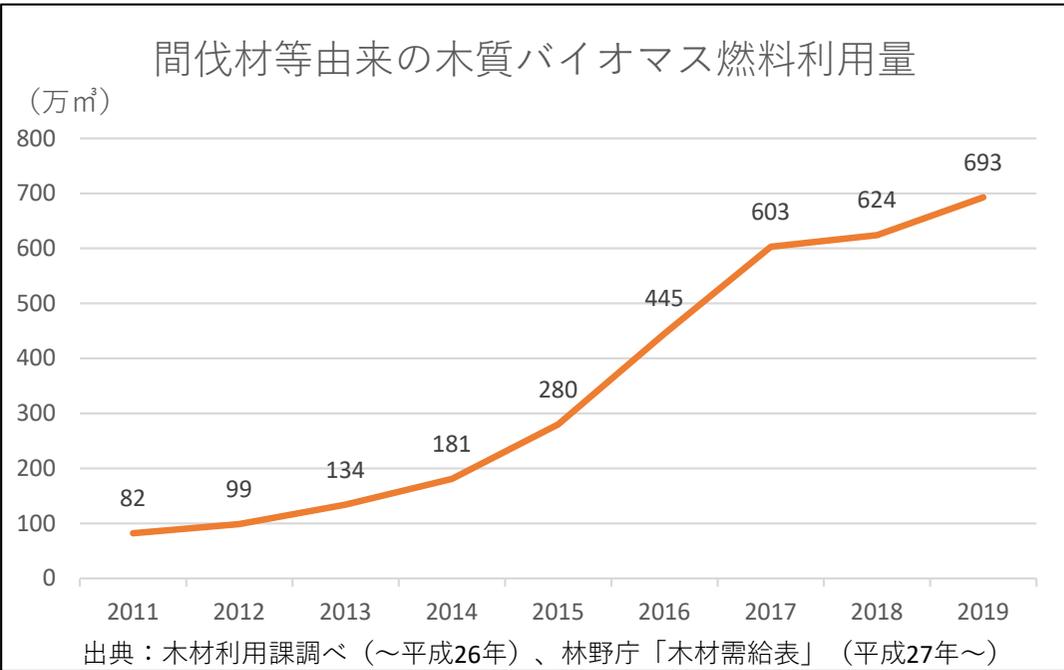
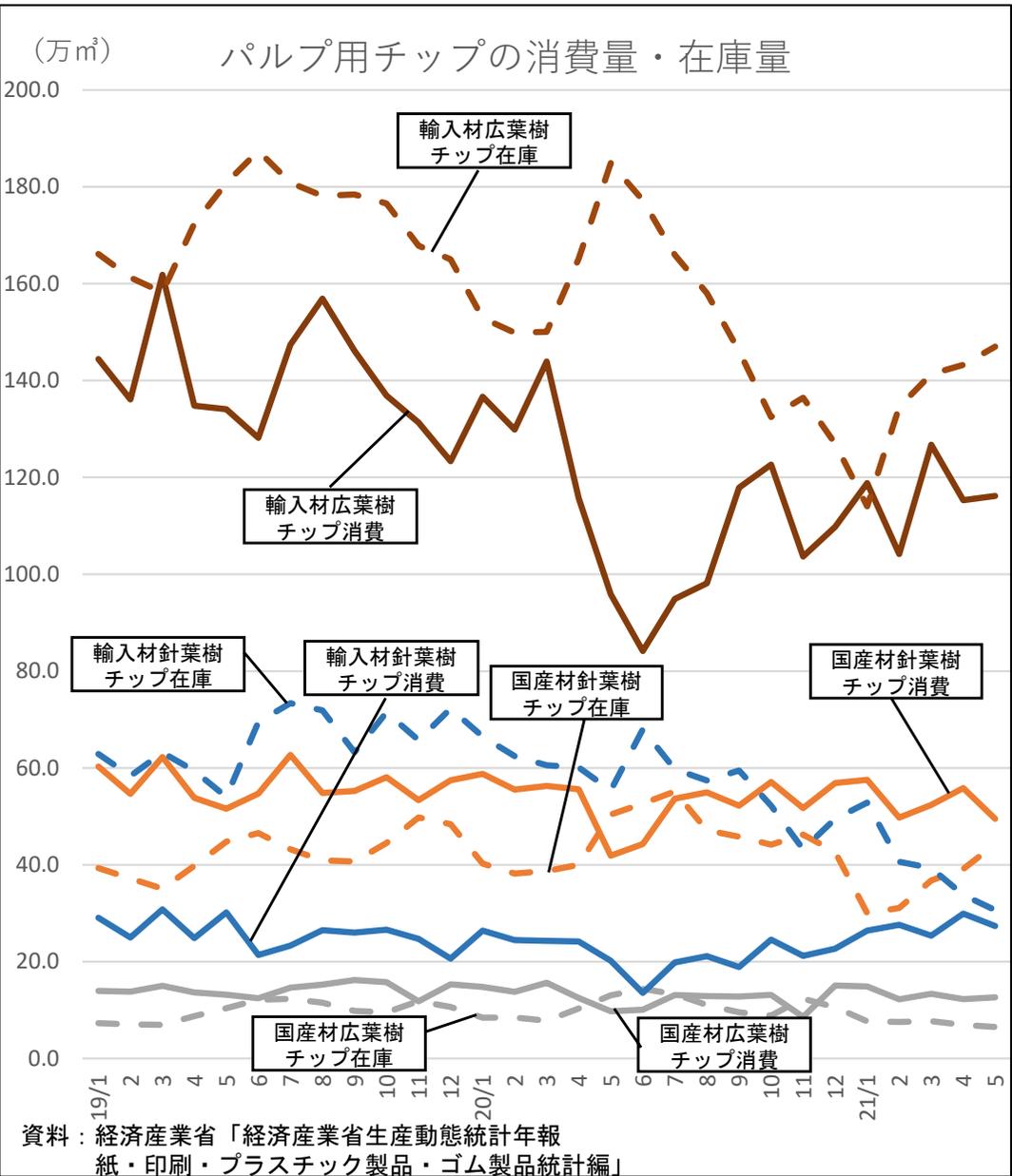
- 合板の生産量及び出荷量は、2021年2月から増加傾向。5月は減少したものの6月は増加に転じ、コロナ禍前の水準となっている。
- 原木の入荷量・消費量は、2021年5月に減少したが、原木消費量は6月は増加した。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1~6月出荷量 伸び率	11%	-1%	-1%	-12%	9%
1~6月出荷量 合計(千m ³)	1,553	1,555	1,644	1,457	1,610

(3) チップ (全国)

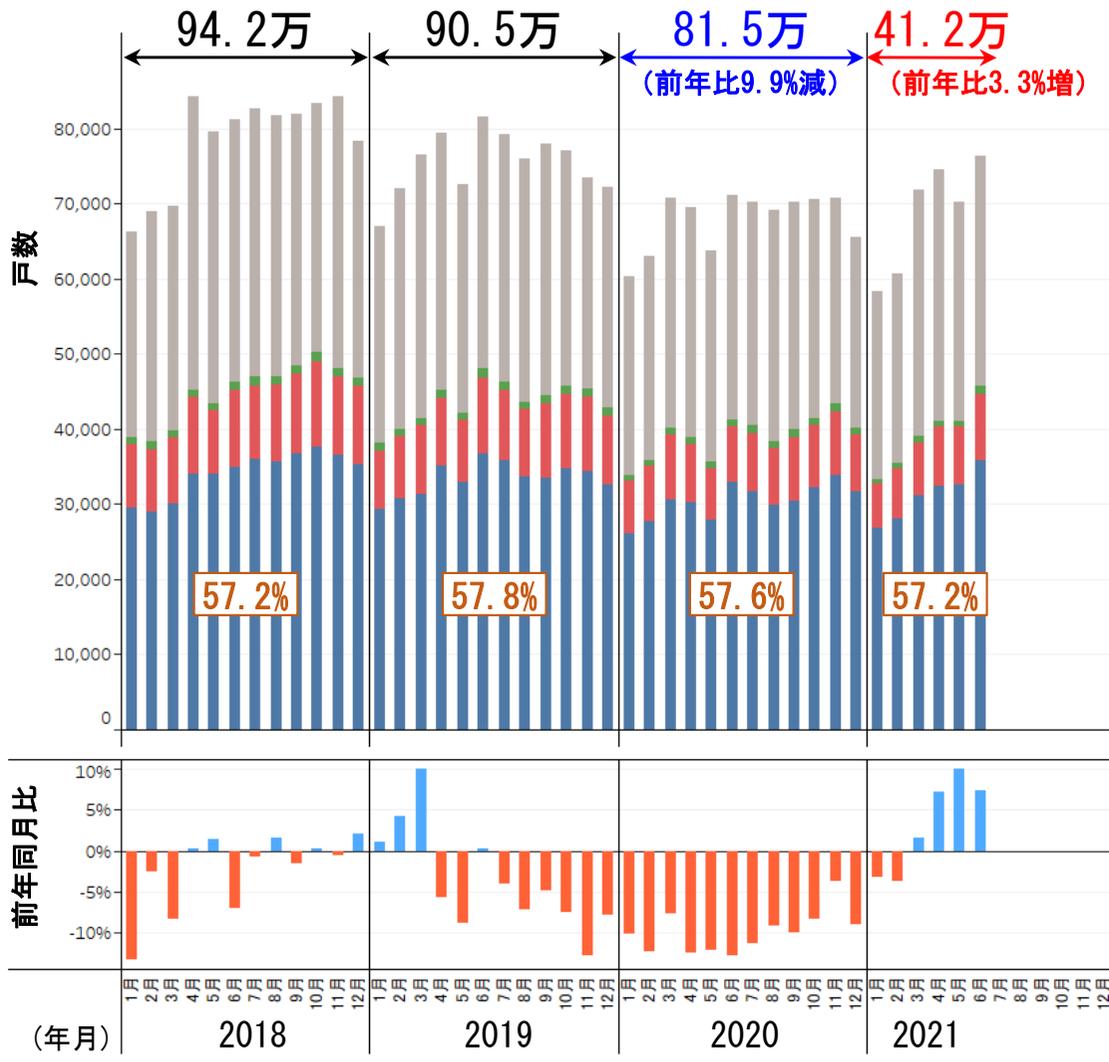
- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。



3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (2018年1月～2021年6月)

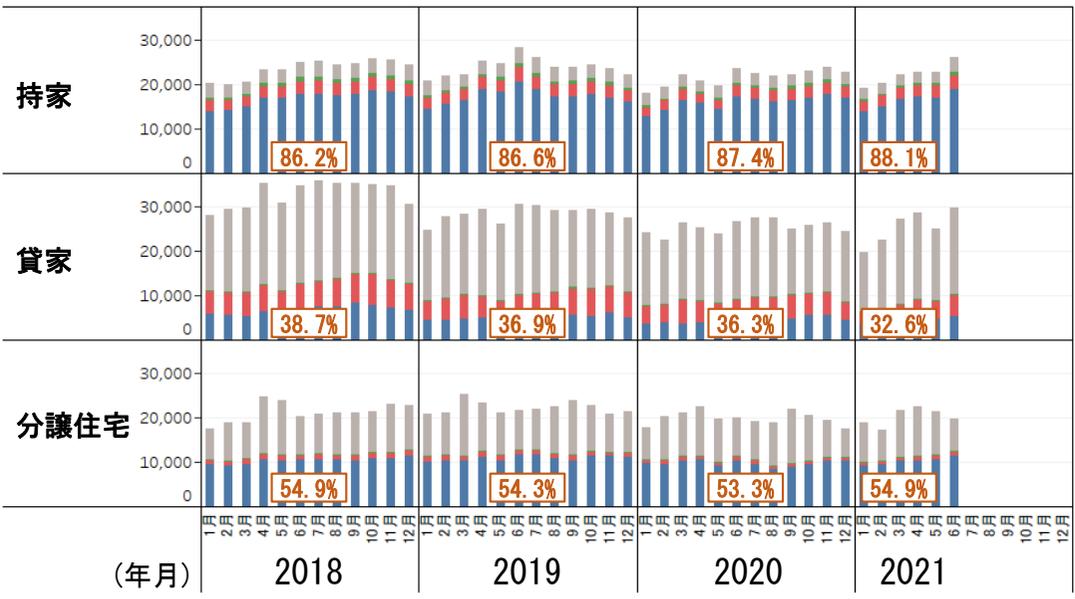
- 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）、このうち木造住宅は46.9万戸（同10.3%減）。
- 2021年1～6月の新設住宅着工戸数は、41.2万戸（前年比3.3%増）、このうち木造住宅は23.6万戸（同4.6%増）。
- 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比28%減となった。）

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2021年 1～6月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	412,010	398,683	3.3%	449,122	-8.3%
■非木造	176,192	173,170	1.7%	194,105	-9.2%
木造	235,818	225,513	4.6%	255,017	-7.5%
■木造プレハブ	4,751	5,131	-7.4%	5,952	-20.2%
■2×4	44,122	44,741	-1.4%	52,521	-16.0%
■在来軸組	186,945	175,641	6.4%	196,544	-4.9%
□木造率	57.2%	56.6%		56.8%	

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



資料：国土交通省「住宅着工統計」